

長崎県は北海道、鹿児島県に次ぐ  
じゃがいもの産地。しかも恵ま  
れた気象条件から春と秋の二回、収穫  
期を迎える。

諫早市の飯盛地区は、県内有数の  
じゃがいもの産地。車を走らせれば、  
一面にじゃがいも畑が広がっており、  
四月の中旬ともなれば、収穫に精を出  
す生産者の姿が見られる。飯盛地区で  
はニシユタカ、アイユタカ、メークイ  
ンの三品種を栽培しているが、中でも  
春のメークインの産地として知られて  
おり、県内生産量の約七割がこの飯盛  
地区で栽培されている。

この地でじゃがいもの栽培を始めて  
三十七年の大ベランである山口正さ  
んは、「メークインは栽培が難しい品  
種」と言う。病気に弱く、手間がかか  
る割に収量が上がらない。そうしたこ  
とから年々、メークインを作る農家は  
減少しているそうだ。それでも飯盛地  
区の生産者がメークインに力を入れて  
いるのは、「求められているから」。  
メークインは関西を中心に全国各地へ  
出荷されている。「消費地から『学校給  
食には、甘味があつて煮崩れしにくい  
メークインでなければダメ!』という

# じゃがいもの収穫

春  
Spring  
in  
Nagasaki

声が上がっています。私たちは、その  
声に応えたいんです」。  
山口さんは美味しいじゃがいもを作  
るためには、土づくりこそが大切だと  
話す。「この粘土質の赤土が、じゃがい  
もの栽培に適しているんです。全国的  
に見ても、こんなに良い土はないん  
じゃないかと思えますね」。  
収穫作業は地道だ。茎葉を刈り、機  
械で掘り起こした後は、傷つけないよ  
うに手作業で選別する。土から掘り起  
こされたじゃがいもはつやがあり、と  
ても大きい。じゃがいもを手にした山  
口さんの笑顔はまぶしい。収穫の喜び  
は、六月の上旬まで続く。

広大な畑が  
活気と喜びに満ちあふれる。

